

# 第3期 木之本地域住民福祉活動計画

2024年度 ▶▶▶ 2028年度

地域の絆 安心して暮らしやすい 木之本

Spring 伊香貝神社の桜



Summer 木之本地蔵稲日



Autumn 葛尾寺の紅葉



Winter 杉野イルミネーション

木之本地域住民福祉活動計画策定委員会

# 目 次

<b>1. 計画の概要</b>	
▶ 第3期末之木之本地域住民福祉活動計画策定にあたり	p.2
▶ 策定の背景	p.3
▶ 計画の位置づけ	p.3
<b>2. 計画策定に関わる情報</b>	
▶ 第2期計画ふり返り	p.4
▶ 木之本地域の福祉データ	p.8
▶ 木之本地域アンケート調査結果より	p.9
▶ 福祉懇談会	p.11
<b>3. 基本理念と基本目標</b>	
▶ 計画の理念と基本目標	p.15
▶ 基本目標1 「心あたたまる交流と地域活動への参画」	p.16
▶ 基本目標2 「安心して暮らせる地域の居場所づくり」	p.17
▶ 基本目標3 「お互い様で支え助け合う見守り活動」	p.18
▶ 基本目標4 「人と人をつなぎ地域や団体がつながる仕組みづくり」	p.19
<b>4. 計画の推進方法</b>	
▶ 計画の推進体制	p.20
▶ 計画の推進方法	p.20
<b>5. 計画策定に関わる資料</b>	
▶ 計画推進に関わる作業概要（日程）	p.20
▶ 計画策定委員会名簿	p.21
▶ 木之本地域の医療機関、福祉サービス事業所など（P7関連資料）	p.22
▶ 用語集（50音順）	p.25
▶ 長浜市地域福祉活動計画策定にかかるアンケート結果	
・ 木之本地域で活動されている事業所からの回答	p.27
・ 木之本地域で活動されている福祉団体からの回答	p.29
▶ 木之本福祉の会 福祉委員研修会でのアンケート結果	
・ 自治会長、民生委員児童委員、福祉委員さんからの回答	p.30

※計画書の中で木之本町全体のことは「地域」、学区のことは「地区」、自治会は「自治会」と表現しています。

## 第3期木之本地域住民福祉活動計画策定にあたり

平成22年の市町村合併後、福祉の会が誕生して14年。その間地域の福祉課題を探りながら様々な事業に取り組んできました。平成28年2月に「第1期木之本地域住民福祉計画」を、平成31年3月に第2期計画を、そして今回、令和6年度を初年度とする「第3期木之本地域住民福祉計画」を策定することができました。どの計画も住民の皆様の意見から課題を掘り起こし、その解決のために方策を立て、事業に取り組んできました。

木之本地域においても、他地区と同様、人口減少や高齢化に歯止めが効かずこの問題解決のために様々な努力をしていかなければならないと考えています。

「地域の絆 安心して暮らしやすい 木之本」このスローガンを旨に地域の皆さんが木之本に住んで良かったと思える福祉の会の活動を目指し「第3期木之本地域住民福祉活動計画」を基本に取り組みを進めたいと思います。

最後に、本計画策定にあたり、連合自治会の皆様、民生委員会の皆様、福祉委員代表の皆様、そして福祉関係団体の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

2024（令和6）年 4月

木之本福祉の会  
会 長 岩根 健治



## 2. 計画策定に関わる情報

### ▶第2期計画振り返り

木之本地域では、平成31年3月に第2期計画を策定し、“地域の絆 安心して暮らしやすい 木之本」を基本理念とし、4つの基本目標に沿って、子どもから高齢者まで様々な世代の地域福祉に関する取り組みを進めてきました。

しかし、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症により、多くの事業は中止せざるをえなくなり、思うように活動はすすめられなくなりました。また自治会のサロンや体操教室、老人クラブなどの活動も中止され、身近に集まれる場がなくなり隣近所のつながりも希薄になり、高齢者の方の筋力低下や認知機能の低下が進み大きな課題となっています。

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行され、サロンや転倒予防教室などの活動は少しずつ再開されつつあり、今後一人でも多くの人に参加し、身体の健康だけでなく心の健康も取り戻していけるような取り組みを進めていく必要があります。

### 基本目標1) ぬくもりの感じられる地域福祉の担い手づくり

#### ◆実践状況と残された課題

- ・木之本福祉の会サポーター募集については福祉の会の広報で募集を行いました、実際の活動まではつながりませんでした。
- ・ちびっこ広場や子ども食堂は新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得なくなったこともありましたが、密をさけての開催やお弁当の配食など、工夫しながら取り組みました。
- ・新規事業としてあげていた生活支援ボランティアの立ち上げや企業・NPOとの連携は、検討する機会はありましたが、具体的な行動までにはひろがりませんでした。

### 基本目標2) みんながいつまでも安心して暮らせる地域づくり

#### ◆実践状況と残された課題

- ・ひとり暮らし高齢者のつどいや介護者のつどいをとおして、同じ立場の方同士の交流の場となりました。
- ・男性の居場所づくりや高齢者の生きがいづくりは、木之本高齢者福祉センターや木之本まちづくりセンターと共催で男の料理教室を実施できました。
- ・サロンもコロナで中止となったところもありましたが、訪問活動を続けていただけたところも多くありました。

### 基本目標3) 支えあい助け合う地域づくり

#### ◆実践状況と残された課題

- ・命のバトンや防災福祉マップの取り組み自治会は少しずつ増えてきています。
- ・災害時ひとりも取り残さないために、各自治会で普段からの無理のない見守り活動を今後も進めていく必要があります。
- ・福祉委員さんに自治会内の福祉活動のリーダーとなっていただき、民生委員さんと連携を深めてもらえるような働きかけが必要です。身近な自治会(町内会)での活動が展開、活性化できるよう支援していく必要があります。

## 基本目標4) 人と人をつなぎ地域からの声を活かすしくみづくり

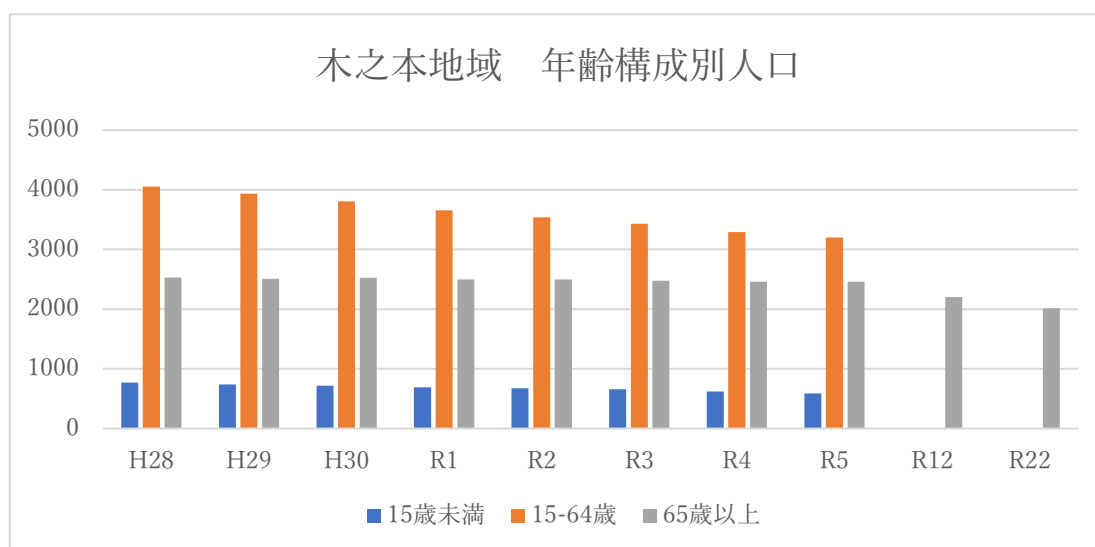
### ◆実践状況と残された課題

- 木之本福祉の会の広報は毎年2回ずつ発行できましたが、若い人達にも福祉の会に関心を持ってもらえるような情報発信をしていく必要があります。
- 令和5年まで37回実施してきたチャリティバザーですが、実施の仕方など検討していく必要があります。
- 各福祉団体と連携して、ふれあいと交流のあるまちづくりに取り組みましたが、担い手が高齢化、減少する中、無理にならない事業の開催方法を考えていくことが持続可能な福祉活動となります。

## ▶木之本地域の福祉データ

### ◆年齢構成別人口の推移

	15歳未満	15-64歳	65歳以上	総計
H28	768	4,056	2,531	7,355
H29	738	3,938	2,509	7,185
H30	717	3,808	2,525	7,050
R1	688	3,657	2,499	6,844
R2	673	3,536	2,498	6,707
R3	656	3,434	2,475	6,565
R4	618	3,291	2,458	6,367
R5	589	3,201	2,458	6,248
R12	2,910		2,201	5,111
R22	1,669		2,015	3,684



長浜市住民基本台帳より。

『第9期ゴールドプランながはま21に記載の市全体推計人口』の圏域別内訳資料」長浜市長寿推進課作成

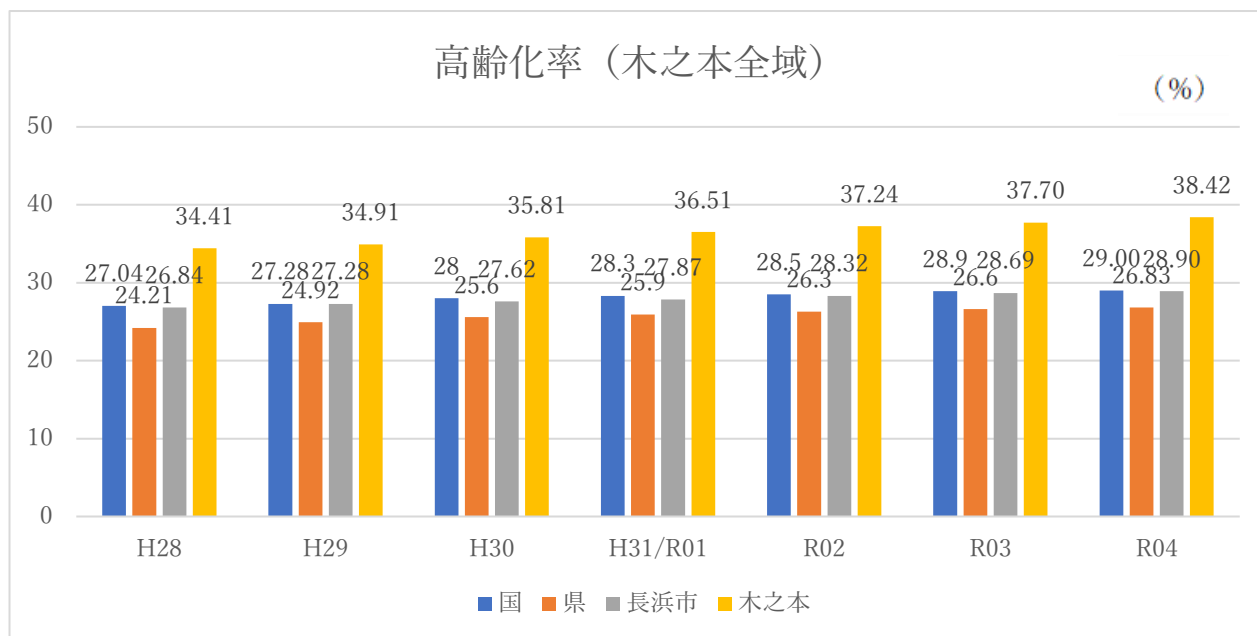
木之本地域の人口は、第1期計画策定時の平成28年には7,355人でしたが、毎年減少が続き、令和5年には6,248人となっています。第9期ゴールドプランながはま21に記載の推計では令和12年には5,111人、令和22年には3,684人まで減少することが予測されています。

◆高齢化率の推移

(%)

	H28	H29	H30	H31/R01	R02	R03	R04
国	27.04	27.28	28	28.3	28.5	28.9	29.00
県	24.21	24.92	25.6	25.9	26.3	26.6	26.83
長浜市	26.84	27.28	27.62	27.87	28.32	28.69	28.90
木之本地域	34.41	34.91	35.81	36.51	37.24	37.70	38.42
杉野地区	48.67	51.02	52.76	53.37	55.32	56.73	56.30
高時地区	38.68	39.14	41.22	41.83	43.39	43.77	44.52
木之本地区	31.96	32.52	32.91	33.65	34.19	34.27	34.75
伊香貝地区	33.33	33.17	34.82	35.40	35.94	37.92	40.26

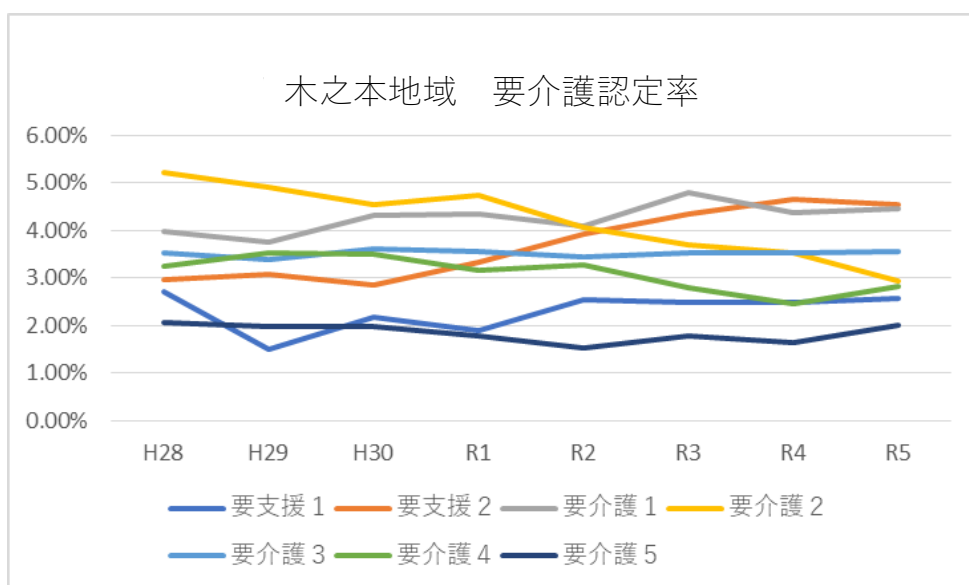
出典 国:各年4月1日現在 総務省「人口推計」、県:各年7月1日現在 長浜市各年10月1日現在 高齢化率の状況表 滋賀県総務部推計(県推計高齢化率は総人口から年齢不詳人口を除いて算出)、



木之本地域の高齢化率は、平成28年には34.4%でしたが、令和4年には38.4%まで上昇しています。地区別にみてもどの地区も上昇しており、杉野地区では56.3%と長浜市内でも第1位となっています。

◆要介護認定率

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
要支援1	2.72%	1.51%	2.17%	1.91%	2.56%	2.48%	2.50%	2.58%
要支援2	2.96%	3.09%	2.86%	3.32%	3.94%	4.36%	4.67%	4.55%
要介護1	3.97%	3.74%	4.31%	4.34%	4.10%	4.81%	4.38%	4.47%
要介護2	5.23%	4.92%	4.55%	4.74%	4.06%	3.71%	3.52%	2.95%
要介護3	3.53%	3.38%	3.62%	3.57%	3.45%	3.54%	3.52%	3.56%
要介護4	3.24%	3.54%	3.50%	3.16%	3.29%	2.81%	2.46%	2.83%
要介護5	2.07%	1.99%	1.97%	1.78%	1.54%	1.79%	1.64%	2.01%



各年4月1日時点で集計。長浜市要介護認定者に関する集計結果より

要支援1、2、要介護1の軽度の方が増えており、要介護3以上の重度の方の割合が減っています。

◆介護保険・しょうがいサービス（詳細は資料編に掲載）

■介護保険事業所

- ・居宅介護 1事業所
- ・通所介護 5事業所
- ・訪問介護 2事業所
- ・訪問看護 1事業所
- ・福祉用具 1事業所
- ・入所施設 3事業所
- ・地域密着型通所介護 1事業所
- ・通所リハビリテーション 2事業所

■しょうがいサービス事業所

- ・居宅系事業所 2事業所
- ・通所系事業所 3事業所



◆地域活動・関係機関（詳細は資料編に掲載）

■地域活動

- ・サロン活動 27 サロン
- ・転倒予防教室 11 教室
- ・こども食堂 2 か所

■医療機関

- ・開業医 4 医院
- ・歯科医 3 医院
- ・湖北病院

■教育関係

- ・認定こども園 1 園
- ・小学校 3 校
- ・中学校 1 校
- ・高校 1 校

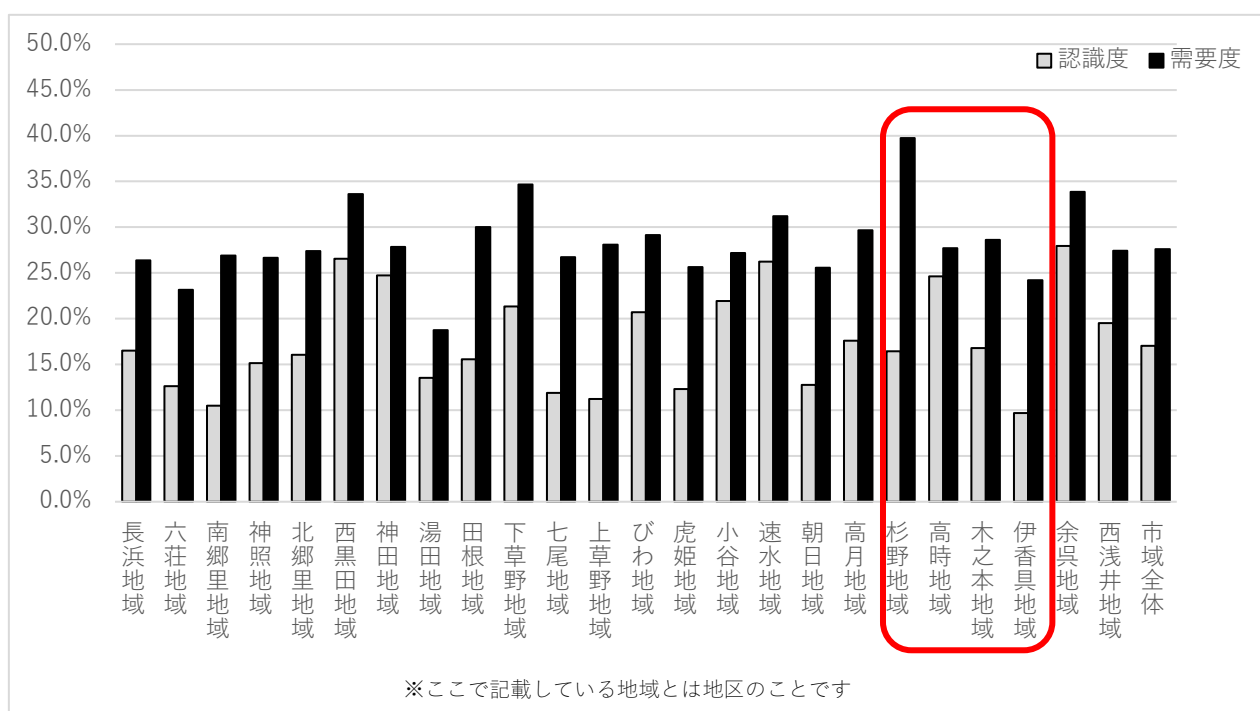
■子育て拠点施設

- ・放課後児童クラブ 1 か所
- ・長期休暇児童クラブ 1 か所

◆長浜市高齢者生活実態調査より

長浜市は令和4年12月に「高齢者生活実態調査」を実施されました。その際の調査結果を抜粋し掲載します。

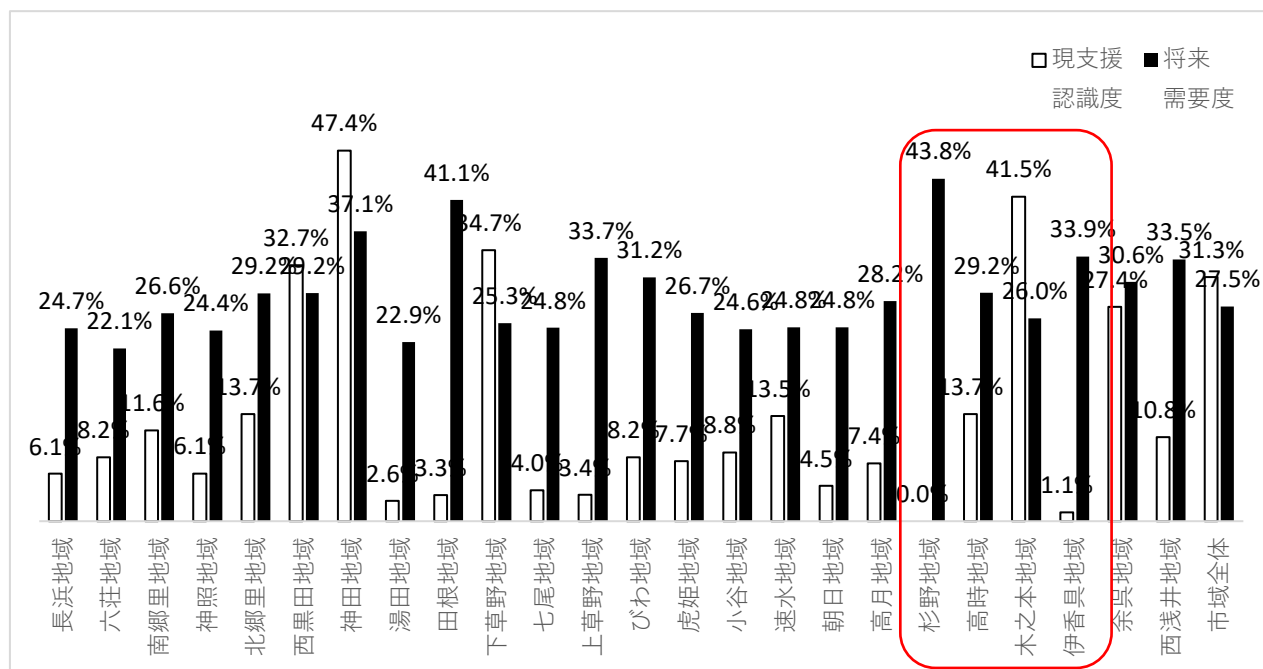
・見守り支援



※長浜市長寿推進課調査

「見守り支援」について、現在の認知度はどの地区もそれほど高くありませんが、将来の需要度は高くなっています。

・買い物支援



※ここで記載している地域も地区のことです

「買い物支援」について、現在の認識度は木之本地区以外は低い値になっていますが、将来の需要度は杉野、高時、伊香具地区で高い結果となっています。

令和5年7月頃から、長浜市社会福祉協議会と平和堂、杉野・高時・伊香具地区地域づくり協議会との協働で、令和6年6月の移動販売開始を目標に協議が進められています。

▶木之本地域アンケート調査結果

木之本地域で活動される福祉事業者や福祉団体、他、自治会長、民生委員児童委員、福祉委員等にご協力いただき、木之本地域での困りごとや必要と感じられる取り組みについてお聴きしました。その結果を第3期計画で取り組む基本目標ごとにまとめました。(資料編に全体の意見は掲載しています)

■基本目標1) 心あたたまる交流と地域活動への参画

- ・コロナ禍で高齢者の方の生活の中での活動量の低下、地域内(自治会)の交流事業の中止で外へ出たいけれど、出られないうちに段々とするのがめんどろになってしまわれ、高齢者と地域との間に隔たりができてきているという意見がありました。
- ・老々介護、老障介護のために地域の活動に参加できないという意見もあります。
- ・中学生からは、自分たちや若い人が地域でやってみたいことを提案したり、伝統行事に参加しやすいようにしたり、大人になっても暮らし続けたいと思うような地域にすることが大切という声がきかれました。
- ・今後、事業所や団体、地域で開催される交流活動が再開される中で、子どもから高齢者まで、一人でも多くの住民が参加、参画しやすい工夫が必要です。

## ■基本目標2) 安心して暮らせる地域の居場所づくり

- 元々、冬場には休止されるサロンも多く閉じこもりがちになっていた中、コロナ禍でサロンだけでなく自治会での行事、子どもの活動も休止され、人が気軽に集まれる場所がなくなり、孤独を感じておられた方は少なくないと思われます。
- 身近な地域で、誰でも行ける「居場所」は、人と人のつながりをつくるだけでなく、自分らしく生き活きと活動できる場として必要とされていることがわかりました。

## ■基本目標3) お互い様で支え助け合う見守り活動

- 近年発生する大雨などの自然災害については、多くの住民が不安に思われています。自治会長さんや民生委員さんも、いざという時にどのような支援をすればいいか、悩んでおられることがわかりました。
- 「命のバトン」や「防災福祉マップ」も推進具合は自治会によっても温度差があります。自治会の中で要援護者の情報を共有しておく「見守り会議」の必要性、日頃からの声かけや見守りが大切であることは多くの方が認識されています。
- 福祉事業所の多くが地域と連携した災害時の支援について取り組んでいきたいと考えておられます。
- 地域での低所得、生活困窮、8050、9060の世帯、免許証返納のことは、心配でありながら、どのようにアプローチすればよいかかわからないと感じておられるところもあり、地域で安心して暮らせるためには住民だけではなく専門職や専門機関との連携、自治会、行政も含めた支援策の検討の場が必要であることがわかりました。
- 今、たちまちはなんとかできている移動や買い物についても、近い将来確実に困る人が増えてきます。生活支援ボランティア団体の立ち上げは必要と感じていることがわかりました。

## ■基本目標4) 人と人をつなぎ、地域や団体がつながる仕組みづくり

- 福祉団体が活動を継続するには、財源の確保が大きな課題となっています。
- 長浜市社会福祉協議会、木之本余呉西浅井地域包括支援センター、木之本福祉の会、地域づくり協議会、自治会、各福祉団体などが木之本の地域の課題を共有し、連携できる仕組みづくりが必要とされ、各制度や組織を超えた総合的に相談ができる窓口の設置が求められています。
- 講演会などの機会を利用して、福祉事業所の見学会やマルシェなどの開催も有効な手段と考えられています。

## ▶住民懇談会

令和5年10月に住民懇談会を開催しました。第3期長浜市地域福祉活動計画の8つの基本目標の中から、木之本地域でも必要と思われる6つのテーマについて、木之本地域の現状と課題、今後あったらいいなと思うことや自分達や地域で取り組めること等を話し合った結果を、第3期計画で取り組む基本目標ごとにまとめました。

### 1) 開催日時

令和5年10月21日(金) 19:00~20:50

### 2) 出席者

自治会長、民生委員児童委員・主任児童委員、福祉委員、各福祉団体長  
長浜市社会福祉協議会職員 等 63名

### 3) テーマ

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| ①「交流と参画」  | ②「居場所づくり」 | ③「見守り活動」  |
| ④「生活支援活動」 | ⑤「災害支援」   | ⑥「仕組みづくり」 |

## ■基本目標1) 心あたたまる交流と地域活動への参画

### 〈現状や課題〉

- ・世帯数も減り老人クラブもない。独居高齢者はいないが人数も少なくサロンもできない。
- ・それぞれのイベントはそれぞれの限定した世代が多い。
- ・交流の機会が減っている
- ・担い手がいない

### 〈こんなことあったらいいなと思うこと、自分達や地域で取り組めること〉

- ・子どもと高齢者の交流の機会、祖父母参観など。
- ・昔やっていた学校での餅つき大会などもできるとよい。
- ・家や学校で教えられないことを地域(づくり協議会)が参加して交流
- ・村で空き家の草刈り(5,000円/年1回)空き家はリフォームして古民家登録しておくとい手あることも。地域のことに参加してもらえる。
- ・シニア世代の活躍を掘り起こす。世代間交流。どうやって人を増やすか。
- ・家を出る機会をつくり人と人とが交わりあう。バザーや文化祭への参加
- ・グラウンドゴルフ大会

## ■基本目標2) 安心して暮らせる地域の居場所づくり

### 〈現状や課題〉

- ・サロンは男性の参加が少ない。コロナで中止しているところもある
- ・グラウンドゴルフ、老人会で寺のそうじや宮さんの掃除
- ・11月には老人クラブで野菜の品評会がある
- ・転倒予防教室もしていたが、体操がしんどくポッチャサロンに転換
- ・家におられるのに出てきてもらえない人をどう巻き込んでいくか
- ・体験してもらわないとよさをわかってもらえない

〈こんなことあったらいいなと思うこと、自分達や地域で取り組めること〉

- いろんな事業の良さを本人に体験してもらいたい
- 相手の立場を考え働きかける
- 他の地区と合同でポッチャ大会
- 野菜の品評会
- 子どもと高齢者が一緒にサロン
- 声かけが大事
- 健康づくりをきっかけにできるとよい

### ■基本目標3) お互い様で支え助け合う見守り活動

〈現状や課題〉

- 回覧板、ポストインが多くなってきた。昔は声をかけて配っていた。
- 顔をあわすことが少なくなり、会って話すことも少なくなった。
- コロナで外出することも少なくなり、歩くことも減り、人と会わなくなった。希薄になった。
- 見守りとしては、新聞がたまっていないか確認している。
- 心配な家は声をかけてあいさつしている
- 転倒予防教室やサロンであった時、元気かな？とあいさつしている
- 自治会で高齢者と要介護の人を見守り活動中
- サロンを通して見守り活動をしている
- 民生委員と自治会長を通じて見守り
- 買い物に行くときの移動手段、歩いている時に声をかけて乗せてあげたいと思うが、事故を起こした時が怖くて乗せられない。
- 免許の返納者少ない。
- 夜の運転が怖い。でも車がなかったら買い物できないし病院も行けない。
- 個人情報への難しさがある
- お楽しみ弁当の配布をして見守りをしているが、料金がいるのでみんなに配れない。負担料をなくせるといい。
- 親戚や子どもに頼んで買い物に行かれたり、買ってきてもらっている
- 平和堂の買い物サポートや生協を頼んでおられる。
- 認知症の一人暮らしの人はヘルパーさんが買い物している
- 見て選ぶのも買い物の楽しみ
- 移動販売は停留所でコミュニケーションがとれる
- デマンドタクシーあるにはあるが利用の仕方が周知できていない。
- シルバー人材センターの草刈り、なかなか来てもらえない
- 除雪については独居の方などは町内会で担当が決まっており、近くのものであけている。
- 民生委員さんが雪どけされているところもある
- 近所の方は完全にボランティアだから頼みにくい

- ・しょうがい者も軽度な人や外国人さんが公的な支援が受けにくい。
- ・若い人の関心度が低い
- ・自治会の会合には男が出る。主婦が出ないので情報が入らない。
- ・自治会自体が大きくなり把握できない
- ・自治会名簿を整理し最新化する
- ・収穫祭を行い、子ども家庭を中心に講演をし、あとバーベキューをした
- ・心の会があり、外に出ている人も集まって見守り参加

#### 〈こんなことあったらいいなと思うこと、自分達や地域で取り組めること〉

- ・無料タクシー：家から平和堂まで行き、見て買って終わったら家まで送ってもらう。
- ・バスの利用も時間で設定されると利用しにくい。今、〇〇に行きたいので迎えに来てほしいということができれば利用される。
- ・移動販売
- ・見守りのルールや仕組み作りが必要
- ・カーテンが開いているか、洗濯物がほせているか、新聞を近所の人が配る
- ・若い人も高齢者も活躍できる場をつくる
- ・高齢者がいきいき活動できる場所作り
- ・畑を作ってもらう
- ・スマホ教室などを通して手指を動かす
- ・負担感のない見守り活動が必要
- ・畑を作ってもらう
- ・スマホ教室などを通して手指を動かす
- ・負担感のない見守り活動が必要
- ・支える人も支えられる人もお互い気軽に伝えられるような仕組みづくり
- ・近所のつながりを大切に。近所同士の見守りが一番。
- ・今回の懇談会のように、いろんな立場の人が一堂に会し話し合いが何回かあるとよい。
- ・外国人やしょうがいの人に行事や懇談会に参加してもらうことで困っていることがわかり、また違うアイデアも得られる。
- ・まずは自治会など小さい単位で参加参画してもらうことで地域の現状を知ることになる。
- ・生活支援団体が立ち上がることはすばらしい。周知が必要。
- ・買い物→地域に販売所を作る
- ・ボランティアの人材育成
- ・自警団ができた
- ・防災マップ作りを始めた
- ・長浜市避難支援見守り支えあい制度の支援者さんの研修（車いす使用法や移動の仕方など）

### ■基本目標4) 人と人をつなぎ、地域や団体がつながる仕組みづくり

#### 〈現状や課題〉

- ・担い手がない、数年で任務が回ってくる（自治会等の役員）
- ・3年間、コロナで外へ出ることがなかった、（行事などについて頼むこともなかった。ようや

く動き出したが、人に依頼することができない、バザー等行き来がないので自治会活動にも波及している

- 民生委員と横（自治会内も含めた他の組織）のつながりが全くない 企業が関わっているのか、どのように関わっているのか全く分からない
  - 個人で活動していてもしれている、みんなが集まってやっけていかないといけない
  - 地域のこれから生じるであろう問題を予測していかなければいけない。特に認知症、どう見守っていくが考えていかなければいけない。
  - 地域内の住環境（危険箇所等）の把握と対応
  - 支える人も少なくなっている、関わってもらえる人の確保
  - 要介護者への対応について、民生委員、福祉委員から関わりを広げていかなければならない
  - 自治会内は把握できている、民生委員同士のネットワークはOKであるが、本人の（民生委員以外に）“知られたくない”という意識や、「個人情報」の取り扱いというバリアもあり本人との信頼関係がないと協働できない
  - 自治会内で守るのが本来であるが、1年交代である、自治会内でのネットワークを広げるのが理想
  - 各課題に共通し関わっているのが、人口減少である、特に若者の「木之本」からの転出
- <こんなことあったらいいなと思うこと、自分達や地域で取り組めること>**
- 課題に対する目線の角度を変えてみることから、企業の目線で地域づくり等 意見を取り入れる機会を設ける
  - 人口減少に歯止めをかける意味でも、若い世代に地域づくりを任せていく
  - 若者の活動家など地域でやりたいこと、木之本への移任者の意見を聞いて取り入れる
  - 子ども（小、中等）だけで集まっていくような企画
  - 若い世代が地域に愛着を持てるような企画

### 3. 基本理念と基本目標

#### ▶ 計画の理念と基本目標

##### 1) 基本理念

## 「地域の絆 安心して暮らしやすい木之本」

基本理念は、第1期計画からの理念をそのまま引き継ぎます。

住民一人ひとりが自分自身を大切にし、身近な人との絆を大切に思い、歳を重ねても安心して暮らすことができ、「木之本に住んでよかった」と思えるまちを目指して、自治会や関係諸団体、関係機関等とともに福祉活動に取り組みます。

##### 2) 基本目標

**基本目標 1 「心あたたまる交流と地域活動への参画」**

**基本目標 2 「安心して暮らせる地域の居場所づくり」**

**基本目標 3 「お互い様で支え助け合う見守り」**

**基本目標 4 「人と人をつなぎ、地域や団体がつながる仕組みづくり」**

第2期計画までは、「地域づくり」「人づくり」「仕組みづくり」の視点をそのまま基本目標として設定し、様々な活動に取り組んできましたが、第2期計画の成果と今後の課題を踏まえて、より具体的な言葉で、基本目標を4つに整理し、さらなる活動の推進を図ります。(これまでの「地域づくり」「人づくり」「仕組みづくり」は各目標の「活動の視点」に移行します。)



## ▶基本目標 1 「心あたたまる交流と地域活動への参画」

### 1) 基本目標の目指す姿

住民が主役となって地域の交流活動を進めることで、人と人とのつながりが広がります。ご近所、自治会、地区、各団体等、さまざまなイベントや交流事業に参加・参画し、気楽に話せ、心ふれあう活動のなかで、福祉の心が育まれ、人材の育成にもつながります。

子どもから高齢者まで、地域のみんなが気軽に参加し交流できる事業を開催し、地域住民のつながりづくりを推進します。

### 2) 活動の視点

**地** あいさつから始まる地域の対話（コミュニケーション）を大切にし、顔の見える関係づくりを進めます。

**人** 地域のさまざまな活動を通して人と人とのつながりを深め、交流活動に参画する人材を養成するとともに「福祉の心」を育みます。

**仕** 人と人とのつながりの要となる人（地域づくり協議会、自治会長、民生委員、福祉委員、団体長等）と協働した交流事業への参加・参画の声かけを進めます。

※**地**：地域づくりの視点    **人**：人づくりの視点    **仕**：仕組みづくりの視点

### 3) 推進の目安となる活動

- 木之本福祉の会サポーター募集
- あいさつ運動
- ちびっこ広場
- 福祉のつどい
- チャリティバザー
- 貸出し備品の充実
- 各地域づくり協議会交流事業（グラウンドゴルフ、スポーツフェスタ、ニュースポーツ大会、子ども支援会議）
- 各福祉団体交流事業（ペタンク、研修旅行）
- きのもと文化祭

## ▶基本目標2「安心して暮らせる地域の居場所づくり」

### 1) 基本目標の目指す姿

高齢者の「居場所」としての、自治会や町内会、広域で開催されているサロンや転倒予防教室、子どもの「居場所」である子ども食堂等が継続できるよう支援します。

また、他にまちづくりセンターや木之本塾などで開催されているサークル活動や趣味・特技を活かした活動ができる場所もたくさんあります。「居場所」は多いほど自分に合った「居場所」に出会える機会が増えます。人と人がつながり、安心できる「居場所」をこれからも創出していきます。

居場所に参加することで役割を持ち、生き活きた生活を送ることはその人の生活に潤いと安心感、充実感を与え生きがいにつながります。参加する人がお互いを理解し認め尊重しあえる「居場所づくり」を進めます。

### 2) 活動の視点

**地** 自治会・町内会域を中心としたサロン活動や転倒予防教室の取り組みを推進するとともに、ひとつの自治会での開催が難しいところでは合同での開催も検討します。

**地** 趣味や特技を活かした居場所づくりを進めます。

**人** 身近な居場所、当事者同士の居場所をつくる人を支援します

**仕** 居場所の拡充を目的とした研修会や情報交換会の機会をつくります。

### 3) 推進の目安となる活動

- ・サロン活動支援（サロン助成、サロンスタッフ講習会）
- ・転倒予防教室
- ・介護者のつどい
- ・ひとり暮らし高齢者のつどい
- ・男の料理教室
- ・きのもと子ども食堂
- ・子ども食堂みちくさ
- ・各サークル活動

## ▶基本目標3「お互い様で支え助け合う見守り活動」

### 1) 基本目標の目指す姿

一人暮らし高齢者や高齢者世帯、認知症の人の他、しょうがいのある人など、生きづらさを抱え、地域での見守りが必要な人は今後も増えることが予想されます。

地域住民や地域の様々な団体が住民の思いや地域の困りごとを、普段のつながりの中で拾い上げ、住民だけでなく専門職も一緒に話し合うことで、課題解決に向けた取り組みを行います。

高齢者にとって、買い物や通院、日常的な生活の支えあいは住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくために欠かすことできない取り組みです。

また、近年の大雨などによる自然災害など、日頃からの防災や減災への取り組みは重要な活動です。いざという時に備えて、誰ひとりとり残さない安心のまちを目指して、おたがいさまでつなぐ見守り活動に取り組みます。

いつまでも住み慣れた木之本で暮らすために、「支え手」「受け手」という関係を超え、「世代」や「分野」を超えて丸ごとつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を創っていく「地域共生社会」をめざします。

### 2) 活動の視点

**地** 「助けて」と言いあえ、お互い支えあって暮らせる地域づくりを進めます。

**地** 引きこもりや生活困窮など生きづらさを抱えた人たちを支援する活動を推進します。

**地** 災害時を想定した地域の支えあい体制をつくります

**人** 生活支援活動に取り組む人材育成に取り組みます。

**仕** 地域の困りごと受け止め解決に向けた話し合いができる体制をつくります。

### 3) 推進の目安となる活動

- ・「長浜市避難支援見守り支えあい制度」への取り組み
- ・見守り会議の実施（命のバトンや防災福祉マップの取り組み）
- ・認知症サポーター養成
- ・友愛訪問
- ・お楽しみ弁当
- ・生活支援ボランティアの立ち上げ
- ・フードバンク木之本塾の活動
- ・社会を明るくする運動（地域防犯と非行防止などの啓発）

## ▶基本目標4「人と人をつなぎ、地域や団体がつながる仕組みづくり」

### 1) 基本目標の目指す姿

木之本地域の福祉の取り組みをより充実したものにするには、各地域づくり協議会をはじめ、民生委員児童委員協議会、赤十字奉仕団、ボランティア連絡協議会、NPO などとの協働と連携が欠かせません。

木之本福祉の会は、各地域づくり協議会や福祉団体の活動を支援するために、会費の徴収率を上げられるよう広報啓発活動や、木之本地域内の企業との連携にも取り組みます。

### 2) 活動の視点

- 仕 福祉団体や関係機関、NPO との連携を強化し各福祉関係団体の活動を支援します。
- 仕 木之本福祉の会の活動を効果的に PR し、会費徴収率の向上を目指します。
- 仕 木之本地域内の企業への協力依頼

### 3) 推進の目安となる活動

- ・ 木之本福祉の会、各地域づくり協議会、民生委員児童委員協議会、赤十字奉仕団、ボランティア連絡協議会、長浜市健康推進員協議会木之本地区、老人クラブ連合会木之本支部ほか関係諸団体との連携
- ・ 各福祉関係団体、各地域づくり協議会の活動支援
- ・ 広報啓発活動の取り組み
- ・ 地域住民、福祉団体と専門機関、専門職の連携や協力

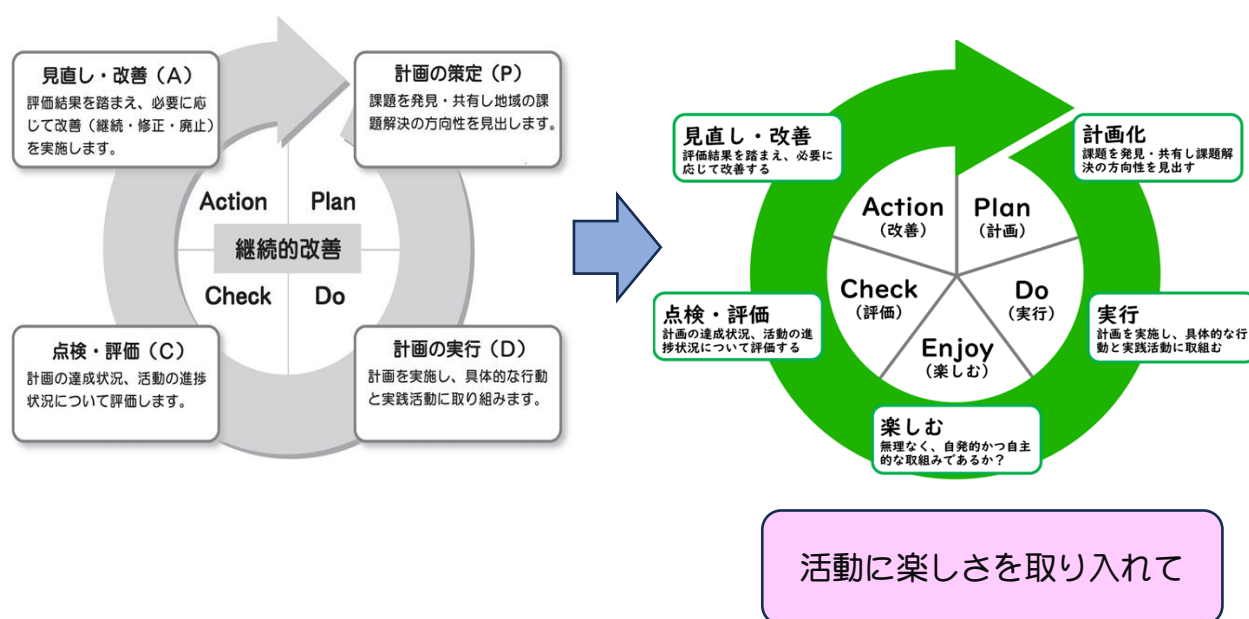
## 4. 計画の推進方法

### ▶ 計画の推進体制

自治会長（町内会長）や民生委員児童委員をはじめ、福祉委員や各団体とも意見を交換しながら、福祉の会を中心に活動の推進や定期的な進捗管理に取り組みます。

### ▶ 計画の推進方法

これまでは計画（Plan）⇒実行（Do）⇒点検と評価（Check）⇒見直しや改善（Action）という PDCA の流れで活動を推進してきましたが、住民活動は何よりも楽しくないと続けることはできません。企画立案する人も、参加する人もみんなが自分なりに楽しく参加、参画できることが大切です。そのため、楽しむ（Enjoy）を追加し、PDECA の考え方を広めていきます。



## 5. 計画策定に関わる資料

### ▶ 計画策定に関わる作業概要（日程）

会議名	実施日	内容
第1回コアメンバー会議	令和5年4月15日	●第3期計画概要について
第2回コアメンバー会議	令和5年5月20日	●第2期計画ふり返しについて ●長浜市地域福祉活動計画アンケートについて
第3回コアメンバー会議	令和5年7月4日	●第2期計画ふり返しと今後の進め方について
第1回策定委員会	令和5年7月25日	●第2期計画ふり返し ●第3期計画概要について ●長浜市地域福祉活動計画アンケートについて ●福祉推進員研修会でのアンケートについて ●第3期計画基本目標について
第4回コアメンバー会議	令和5年8月29日	●第1回策定委員会の報告

		●懇談会について
第5回コアメンバー会議	令和5年9月19日	●懇談会の参加者とテーマについて
住民懇談会	令和5年10月21日	●6つのテーマでに分かれてグループワーク
第6回コアメンバー会議	令和5年11月21日	●懇談会の結果報告について ●策定委員会について ●計画書について
第2回策定委員会	令和5年12月23日	●第3期計画1次素案の検討
第7回コアメンバー会議	令和6年1月16日	●第3期計画素案の修正
第3回策定委員会	令和6年1月20日	●第3期計画2次素案の検討

▶ 第3期末之本地域住民福祉活動計画 策定委員会名簿

(敬称略)

団 体 名	氏 名
杉野連合自治会長・杉野地区地域づくり協議会代表	山中 宏
高時連合自治会長・高時地区地域づくり協議会代表	山内 喜久雄
木之本連合自治会長	藤田 喜代隆
伊香具連合自治会長・伊香具地区地域づくり協議会代表	三家 有幾生
木之本地区地域づくり協議会代表	寺田 年克
木之本地区民生委員児童委員協議会・木之本福祉の会副会長	吉田 隆浩
木之本地区民生委員児童委員協議会	浅井 加代子
杉野連合自治会福祉委員代表	山下 智美
高時連合自治会福祉委員代表	嶋津 整司
木之本連合自治会福祉委員代表	落合 武士
伊香具連合自治会福祉委員代表	赤井 秀昭
身体しょうがい者福祉協会木之本支部代表	脇坂 保生
長浜市老人クラブ連合会木之本支部代表	秦 信映
木之本赤十字奉仕団代表	山岡 弘子
長浜市健康推進員協議会木之本地区代表	脇阪 しげり
木之本ボランティア連絡協議会代表	田部 富子
長浜市のぞみ会木之本支部代表	吉川 嘉枝
木之本青少年育成会代表・木之本福祉の会監事	横田 誠一
有識者	岩根 博之
有識者	山表 雄二
有識者	二宮 芳和
木之本福祉の会監事	田川 里美
木之本福祉の会会長	岩根 健治
木之本福祉の会副会長	山岡 吉彦

▶木之本地域の医療機関、福祉サービス事業所など（P7関連資料）

■福祉事業所

No	団体区分	事業区分	団体名
1	高齢	居宅支援	湖北やすらぎの里
2	高齢	通所介護	(福)長浜市社会福祉協議会しゃきょうのデイサービス伊香の里
3	高齢	通所介護	(福)長浜市社会福祉協議会リハビリデイサービス伊香の里アネックス
4	高齢	通所介護	よりあい処いっぶく家
5	高齢	通所介護	(株)ニチ学館 ニチケアセンター木之本
6	高齢	通所介護	湖北やすらぎの里
7	高齢	通所介護	リハビリデイサービス しゅん
8	高齢	訪問看護	湖北病院訪問看護ステーション
9	高齢	訪問介護	(福)長浜市社会福祉協議会しゃきょうヘルパーステーションあとれ
10	高齢	訪問介護	ニチケアサービス
11	高齢	福祉用具	ヨコタライフサービス
12	高齢	福祉施設	(福)長浜市社会福祉協議会特別養護老人ホーム伊香の里
13	高齢	福祉施設	(福)長浜市社会福祉協議会ケアハウス伊香の里
14	高齢	福祉施設	介護老人保健施設 湖北やすらぎの里
15	高齢	地域密着型	しゃきょう小規模多機能型居宅介護ひなたぼっこ
16	しょうがい	居宅系事業所	(福)長浜市社会福祉協議会しゃきょうヘルパーステーションあとれ
17	しょうがい	居宅系事業所	NPO法人さざなみ
18	しょうがい	通所系事業所	にじ
19	しょうがい	通所系事業所	リズム
20	しょうがい	通所系事業所	(社)湖北会 やまぶき
21	しょうがい		NPO法人 C I Lだんない

■医療機関

No	名称
1	岩根医院
2	荻野医院
3	前川医院
4	たきはた眼科
5	大音歯科
6	澤渡歯科
7	横井歯科
8	長浜市立 湖北病院

■教育関係

No	名称
1	高時小学校
2	木之本小学校
3	伊香具小学校
4	木之本中学校
5	きのもと認定子ども園

■子育て拠点施設

No	名称
1	放課後児童クラブこぶし
2	長期休暇児童クラブ トキッズ

■地域活動

No	区分	名称	会場
1	サロン	金居原ふれあいサロン	ふれあい館
2	サロン	杉野いきいき健康体操グループ	こぶし会館
3	サロン	大見サロン	訪問
4	サロン	川合ふれあいサロン	老人いこいの家
5	サロン	古橋区いきいきサロン	龍泉寺
6	サロン	石道村づくりの会	個人宅
7	サロン	石道ポッチャサロン	自治会館
8	サロン	きゃんせ小山	自治会館
9	サロン	仁寺ふれあいサロンえがお	社務所
10	サロン	古町秋のつどい	明楽寺
11	サロン	八木屋ふれあいサロン	元気の館
12	サロン	西横町サロン	集会所
13	サロン	東横町サロン	集会所
14	サロン	おいでおいで	木之本塾
15	サロン	はつらつ体操教室	自治会館
16	サロン	廣瀬サロン	総合センター
17	サロン	田部ふれあいサロン	自治会館
18	サロン	アットリ老人会	自治会館
19	サロン	黒田自治会サロン	自治会館
20	サロン	千田サロン	自治会館
21	サロン	だんない生き生きサロン	だんない
22	サロン	元気マンサロン	だんない
23	サロン	大音ふれあいサロン	自治会館



24	サロン	サロンさくら	サロンさくら
25	サロン	西山サロン	自治会館
26	サロン	北布施サロンの会	自治会館
27	サロン	赤尾転倒予防体操教室プラス	自治会館
1	転倒予防教室	ねむの花	ふれあい館
2	転倒予防教室	緑風すぎもと	自治会館
3	転倒予防教室	川合コスモス会	老人いこいの家
4	転倒予防教室	伝馬すこやかクラブ	交遊館
5	転倒予防教室	ニコニコクラブ	交遊館
6	転倒予防教室	廣瀬転倒予防教室	総合センター
7	転倒予防教室	黒田体操教室	自治会館
8	転倒予防教室	千田老人クラブ体操クラブ	自治会館
9	転倒予防教室	大音まゆの会	自治会館
10	転倒予防教室	さくら	サロンさくら
11	転倒予防教室	西山ひだまり	自治会館
1	こども食堂	きのもとこども食堂	木之本福祉ステーション
2	こども食堂	こども食堂みちくさ	みちくさ

## ▶用語解説（50音順）

### あ行

#### NPO法人

Non-Profit Organization の略で、民間非営利組織（団体）のこと。営利を目的とせず、団体の社会的使命の実現を目指して活動しています。様々な分野（福祉、教育、文化、まちづくり、環境、国際協力など）のNPOがあり、特定非営利活動促進法（1998年）に基づく、特定非営利活動法人として法人格を持つものから、市民活動団体やボランティアグループを含めた法人格を持たない幅広い意味として使う場合もあります。

### か行

#### 高齢化率

0～14歳を年少人口、15～64歳を生産年齢人口、65歳以上を高齢者人口としたとき、総人口に占める高齢者人口の割合のことです。

### さ行

#### 社会福祉協議会

社会福祉法（2000年）に基づく社会福祉法人の一つ。一定の地域社会において、住民が主体となり、社会福祉、保健衛生、その他の生活の改善向上に関連のある講師関係者の参加、協力を得て、地域の実情に応じ、住民の福祉を増進することを目的とする民間の自主的組織です。社会福祉を目的とする事業の企画及び実施、調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成、社会福祉に関する活動への住民参加のための援助等を行います。

### た行

#### 地域福祉計画

社会福祉法に基づき、各自治体が高齢者、児童、しょうがい者などの分野ごとの「縦割り」ではなく、住み慣れた地域で行政と住民が一体となって支えあう総合的な地域福祉に取り組む計画です。

#### 地域共生社会

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会です。

### は行

#### 8050

「8050問題」といわれており、「80」代の親が「50」代の子どもの生活を支えるという問題です。

## PDCAサイクル

Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Action(改善行動)の4つで構成される行動プロセスの枠組みの一つ。従来、PDCAサイクルの考え方は、公共分野において事業の円滑に推進するために取り入れられてきました。4つの段階を順次行って一周したら、最後のAction(改善行動)を次のPDCAサイクルにつなげ、螺旋を描くように一周ごとに各段階のレベルを向上(スパイラルアップ)させて、継続的に改善することを目指しています。

## 福祉委員

自治会内で暮らしの課題を把握し、福祉的な支援が必要な方に寄り添い、地域住民の協力を得ながら、身近な地域で福祉活動を進める担い手です。長浜市では地区によって呼び方が異なり、設置されている地区、されていない地区があります。

## 福祉教育

地域で暮らしづらさを感じている方や住民と共に、誰もが暮らしやすいまちについて考え、それに向けて一人ひとりが気づき、行動するきっかけをつくります。

## ま行

### 民生委員児童委員

民生委員児童委員は、厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める方々のことです。

## ▶各アンケートより

### ■長浜市地域福祉活動計画策定にかかる木之本地域で活動されている福祉事業所からの回答（原文のまま）

#### ①地域の課題

- ・コロナ禍下で高齢者の方の生活の中での活動量の低下
- ・外へ出たいけど、出られない方が、段々とするのがめんどうになってしまわれている。
- ・高齢者と地域との隔たりができています
- ・低所得者、生活困窮者が多い。
- ・老々介護、8050、9060 など問題がある。
- ・ゴミ屋敷、ネコ屋敷など近隣にも迷惑がかかっている。
- ・高齢化
- ・老障介護
- ・担い手の高齢化、固定化による事業・活動の縮小。
- ・冬場の閉じこもり。
- ・コロナ禍によるサロンの休止。
- ・高齢化による地域行事の停滞により、以前よりも閉じこもり傾向
- ・高齢化が進みキーパーソンの不在の家族が多い。
- ・高齢者世帯が多く有事の際に避難が困難
- ・避難の際の移動手段が地域で話し合われていない
- ・高齢者、障害者に対する地域の理解不足
- ・社協、包括、居宅との連携体制が不十分
- ・民生委員さんの中には、地域で何をすれば良いか分からないと感じておられる方が居るので役割を明確にする必要がある
- ・誰かが何とかしてくれるのではなく個人の防災意識を高める
- ・独り暮らしや高齢者世帯も多く、在宅での生活が十分支援しきれない。
- ・限られたサービスの選択となる。
- ・冬期や、水害等、災害時には交通の中断もあり利用者の安否が確認できにくい
- ・買物する場所が地域に少ない。
- ・介護サービスも事業所が少なく、事業所を利用者の希望通り選択する事が出来ない。
- ・町内バスが走っているが利便性が悪い。
- ・介護保険では賄いきれない課題（移動手段、見守り体制、家庭内の課題等）が多く、ボランティア頼りの部分も多い
- ・独居や高齢世帯の方が暮らすうえで車がないと生活自体が成り立たないところもあり、介護保険制度を利用されている人よりも利用されていない人の方が、必要なサービスに繋がっていない
- ・地域の担い手も都市部（旧長浜や他の市）に流出しており、地域の活動も特定の人に負担がかたよっている
- ・人口流出によりそのサービスの担い手である介護職員の確保が大きな課題

## ②今後、地域と取り組みたいこと

- ・緊急時、災害時の連携
- ・講演会の機会に併せて事業所の見学会やマルシェを開催
- ・送迎車両等を利用した、地元高齢者等のコミュニティーバス構想
- ・事業所で農業を始める場合の農業指導を地元高齢者に願う
- ・緊急時、利用者のことを地域との共有、話し合い
- ・事業所の相談窓口、支援内容の周知、啓発活動
- ・高齢者の健康づくりと介護予防の推進
- ・認知症 声かけ模擬訓練の連携／災害時の模擬訓練
- ・高齢者の積極的な地域活動（身体を動かす機会や自らの趣味を生かした生涯学習 e t c）の推進。
- ・通いの場、居場所づくりの展開（参加、活動状況をふまえた広報）。
- ・現在行っている団体の活動状況の確認と参加者を増やす啓発促進。
- ・避難支援が必要な利用者を地域が把握できるよう包括が主となって情報発信の場を設けて欲しい
- ・発災時には自分の身は自分で守るという意識を持てるよう日頃からの心構え、準備物など個人の防災力を高めるための情報発信
- ・災害時の連携
- ・災害時等の連絡網の把握、地域との交流もできればよい。
- ・出前講座も積極的にうけていき、地域の中で知ってもらえるきっかけがつかれるとよい
- ・独居や高齢世帯の方に対しての支援や見守りなど地域との連携を図れる仕組み作り
- ・「介護者のつどい」や「出前講座」など地域貢献の為の活動

## ③誰もが安心して暮らせるためにあればいいなと思う仕組み、システム

- ・各地域に気軽に立ち寄れるサロンを作る。（高齢者だけでなく、全世代の地域住民の利用が可能）  
⇒食堂や遊べる物、図書、ジム等も併設されている複合施設。将来的に医療相談などもできるようになればいい。
- ・地元のコミュニティーを当事業所中心で作ったり、地元の経済を当事業所が一部担うようになれば、障がいをもった人が社会からの偏見や差別に怯えることなくその人らしく豊かに生きて行けるのではないかな
- ・情報共有のための細かな連携（・話し合い ・支援者を知りたい）
- ・生きづらさを感じておられる方々（認知症、しょうがい者 e t c）の理解を広げる取り組み。
- ・各世代や認知症、しょうがい e t cによって、相談できる既存のシステムを、誰でもわかりやすく可視化する。
- ・不安に思わず相談できるシステム（アウトリーチも含め）。
- ・支援が必要な高齢者、障がい者を地域が把握する
- ・幅広い年齢層の地域住民の交流の場
- ・障害者福祉分野でのファミリーサポートセンターの拡充

- ・休日、緊急に対応できる地域での見守り、訪問体制やお泊りの施設
- ・買い物ツアー（送迎して平和堂まで相乗りで連れて行ってもらえる）システム
- ・デマンドタクシー（自宅から目的地まで）
- ・各制度を超えた総合的に相談ができる窓口の設置。相談後、たらい回しにならない体制の構築
- ・福祉課題も災害においても、まずは「自助」であり「互助」が重要。その為の地域住民の意識改革が必要であり、その為の啓発活動
- ・子どもだけでなく家族まるごと支援ができるとよい

## ■長浜市地域福祉活動計画策定にかかる木之本地域で活動されている福祉団体からの回答（原文のまま）

### ①活動を通して感じる地域の課題

- ・若年老人が高齢者の介護に時間が多く、事業に参加できない。
- ・高齢者が多くなり役員のなりてがない。
- ・家庭内で食事がじゅうぶんに作ってもらえない規則正しい生活が送れにくい
- ・少子・高齢化による人口減の為、自治会や地域づくり協議会自体の活動が困難になっている
- ・頼る人が居ず、収入も少ない世帯がある
- ・団員の高齢化により、活動に制限がある方が増えてきた
- ・会員減少に歯止めが難しくなってきた
- ・田畑の管理が出来ず、耕作放棄地が増えている。
- ・高齢者夫婦または高齢者一人暮らしが増えている。
- ・全体に高齢化して支え合いが出来なくなっている。
- ・バス停まで歩いて行くのが厳しいので、高齢者でも自家用車を手放せない。
- ・神社や寺、祭りなど、住民の精神的なつながりに重要な部分が維持しにくくなってきた。
- ・除雪できず、冬の間外出困難になっている世帯が出来てきた。
- ・医療体制が現在のまま維持されるかが一番の課題（湖北病院の存続）。また若者の他府県への流出も喫緊の課題。

### ②今後取り組みたい地域との連携活動

- ・スポーツ大会（グラウンド、ゲートボール、ペタンク、卓球）
- ・講演会
- ・文化祭
- ・研修旅行
- ・交通安全教室
- ・友愛訪問
- ・チャリティバザー
- ・奉仕作業
- ・親子簡単クッキング教室
- ・自治会単位でなく、高時地区全体で考えられるように、高時地区住民全体が参加できるイベントを実施し、交流を図る

- ・湖北病院との連携事業の取り組み
- ・地域の魅力発信事業。

### ③誰もが安心して暮らすためにあればいいと思う仕組み、システムなど

- ・社会福祉協議会、福祉の会等と協働を図る目的にした研修会
- ・いつでも誰でも利用できるミニサロンが増えるといい
- ・定期的に情報を発信して同じ思いをもつ者同士の集まりが増えるといい
- ・研修できる機会が欲しい
- ・村の中にシェアハウスや集合住宅を作って、集まって生活したらどうか

## ■木之本福祉の会 福祉委員研修会でのアンケート

【自治会長、民生委員、福祉委員さんからの回答】（原文のまま）

### 〈それぞれの立場で感じている地域の課題〉

- ・プライバシーという事での普段のお声かけの難しさ
- ・今は車に乗って買い物に行けるけど、この先いつまで乗れるか、乗れなくなったとき、買物や通院はどうしたらいいのか。
- ・見守る人がいなくなることが心配
- ・指定避難所まで4キロ。しかも崖崩れの恐れのある所を通る。
- ・高齢者で一人女性の方が住んでおられるので、災害が起ったらどう対応したらよいかわからない。
- ・高齢の母親と二人で暮らしているのでもし自分がけがをした場合どうしていいかわからない。
- ・ひとり暮らし、ほぼ寝たきり、各1名おられます。勤務していますので勤務中だったらお手伝いなどもできないと思います。
- ・声かけや移動についていろいろ心配。総合病院は大切。移動や取り壊しはやめて。
- ・土砂災害
- ・消防団員が令和6年度から減ることに伴い防災の体制が全くできないこと。
- ・買物等いつまで行けるか、心配。車の運転いつまでできるか。
- ・ひとり暮らしの方々の支えをどうするのか。見守り支えあいの強化
- ・集合住宅（アパート）の住民との関わりが難しい
- ・ひとり暮らしの方も大事かもしれないが、自分自身のことをまず考え行動する。そしてみんなで各区民にわかってもらう。災害は明日にも来る。
- ・サロン等へ来られない方の日常
- ・近所にひとり暮らしの方がいるが近所の方々が気をつけてくださってありがたいです。
- ・村の中で誰が動けて、誰が動けないか。ひとり暮らしか家族がいるか、すべて知らない。
- ・今後の買い物などと独居世帯の見守り活動
- ・連合自治会の会議で地区の統一した防災マニュアルを作成してほしいとの意見が出ている。
- ・水位上昇で浸水の恐れがある家が2軒ほどある。
- ・川の氾濫でどこに避難すると安全なのか、車もつかえない場合どうしたらいいのか。
- ・近くに一級河川があるので水害が心配
- ・ひとり暮らしの方が5名、緊急時の連絡体制の整備

- ・ひとり暮らしの方への声かけ誰がする？
- ・超高齢化、過疎化が著しい集落において、災害時などいざという時の介助者不足が深刻です。
- ・普段の見守り活動や災害時の対応が自分にできるのかと心配になりました。
- ・大雨等があると現在はないが、川の不安もあります、山崩れ等の心配もあります。川の水の色等を確認
- ・人とのつながりのもち方
- ・高齢の方が車に乗っておられるが危ないと思うことがある。なかなか返納できない事情もわかるのでどのようにしていいか。
- ・町内にアパート、マンション等増えたこと。自治会に入っていない方々の対応。
- ・我が自治会も高齢者のみの世帯も増えています。また、昼間に災害が起きた時は家に残っているのはほぼ高齢者ですのでそういう場面、時間帯を考慮した対策が必要ではないかと思う。
- ・民生委員として自治会活動に孤独感を感じる
- ・年齢を重ねて、誰に頼っていくのか・・・
- ・車の運転ができなくなるのが心配です
- ・みんなで話し合うことのできる場所がない
- ・高齢者が増えていくこと
- ・近年、他所移住者が毎年あるが、地域を熟知していないこともあるので、非常時の対応を書面で情報共有が必要と考えています。
- ・生活ごみ対応
- ・高齢化、空き家が多い。
- ・高齢者の方にいかに支援や声かけができるのか。だから常日頃の行いが大切であると思います。
- ・避難経路に軽トラも通れないようなところがある。
- ・地域の連携、交流、見守りを強化しなければなりません。ただ、個人情報の壁があり、なかなかまとめられない。
- ・無料タクシーつくってほしい
- ・高齢化が進み、免許を返納される家族が出てきたが、コミュニティバス等移動手段がほしい。独居老人が他者の助けを受けられない。
- ・命のバトンの設置
- ・地域内でも高齢者が多くなり見守り等でしっかり把握しなければと思う。
- ・自治会で防災に対する知識を持つことが大事ではないか
- ・アパート、マンションの方の災害時の時はどうすれば・・・
- ・これから10年、20年後暮らしが心配です。買い物、災害等。
- ・コロナの関係でみなさん会話するところが減りでけなくなりました。今後大きな課題です。

#### 〈それら課題に対して必要と思うこと、自分たちや自治会でできそうなこと〉

- ・出会ったときに気楽にしゃべってもらうよう努力する
- ・サロンをやっているの（ただし、男性の参加が少ないのが・・・）その場で情報を得る。
- ・自治会に防災会があるのでそれを活かしたら。
- ・自治会で転倒予防教室を開催中。その拡大をしたい。



- 自分が動けるうちは他人を気遣うよう心がける。
- 災害について話すことがあればよいかなと思う。
- 自治会主催の災害に対する研修会の実施
- 声かけと見守り。日頃からの安否確認などの行動が大切だと思います。
- 災害の恐ろしさを知る。知らせる。
- サロンと自治会の連携は大切。勉強会を持つ。
- 自治会の中で災害時の対応について話す機会があるといい。
- 夫を亡くされて以前より元気のない独居老人（女性）の方の様子を気にかける。また、高齢者夫婦の様子も気にかける。
- 防災マニュアルの作成が急務である。防災委員長となりシステムを作り上げる。
- 村人の方々が高齢者の方を見守りする。買物に関しては宅配の活用や生協さんを頼む
- 日々の見守り。日程を決めての自宅訪問（1～週間に1度）
- 人も少なくサロン開催も難しい。茶話会をする。（声かけをして人集め）折り紙等手先を使うことをしてもらったらどうかな。
- 情報共有、資料の提供の方法が必要
- 各自治会で、各役員（民生委員、福祉委員、ボランティア）月1回程度集まり日頃から話しあい実技もまじえて各区民一人一人にわかってもらう。
- 日頃からみんなが集まり、いろいろな面で勉強する。区民一人ひとりに災害の恐ろしさをわかってもらう。
- 地域のみんな（誰とでも）話し合うことのできる自治会づくり
- もし何かあると自分が慌ててしまうと思います。自治会長さんにも日常的にお願いしていきたいです。
- サロンがないので、今年、自分から声をかけ集まってもらいました。11名の方が喜んで来てくれました。
- サロン以外でみんなが集まれる機会づくり。高齢者の連絡網（毎日定期連絡する）
- 90 軒超えるので役割分担して連絡を常にできるよう備える
- 仕事が休みの時は村の中を歩いて高齢者の方と話す。様子を聞く。
- 買物は自分で見て買いたいので自治会まで移動販売の車がきてくれるといい
- 長浜市防災では自然水利を利用する必要はないといわれるが、地区独自の自然水利を作る必要があると考えます。
- 避難所の開設と早期連絡。自治会での相談、早期対応。自治会の状況を流す（スマホ）
- 災害場所によって地域での避難方法のハザードマップの配布。地域によっての勉強会
- 自治会全体で対応を考える。話し合いの場をつくる
- 隣家や自治会役員と遠方家族との連絡体制の整備。日頃からの交流。
- 他の自治会、ボランティア、公共（行政）などの支援
- 自治会、福祉委員さんと日頃から見守り活動に対して話し合いなどができればと思います。
- 高齢者さん、ひとり暮らしさんを気にかける。
- サロン等により情報共有を行う。話を聴く。独居の方など訪問して確認が必要。
- 情報の共有

- バスなどもう少し利用しやすい環境が欲しい
- 隣近所での見守り助け合いができるような付き合いを心がける。
- 自治会全体だけでなく町内会単位での話し合い。
- 町内会の組織とつながればいい
- 民生委員一人のアンテナでは限界がある。町内会と地域の方の情報共有できるとよい
- サロンの活動も活発になるとよい
- 近所の様子に気をつけて、あいさつをするようにする。
- 普段からの「あいさつ」「近所づきあい」
- サロンにもっと多くの方に来ていただく
- 社協さんにフォーマット、手法等指導いただきたい。
- サロン代表をしているが、毎回同様メンバー（女性）高齢者男性の参加を促したい。
- 周辺理解、対話
- いざという時に連絡や見守りする人が配置できればよい
- なかなかできそうもないが、気にかける
- 見守り会議をもっと増やしてほしい。
- 福祉委員さんともっと連絡をとりあう。
- 私は話をすることが好きなので、ひとり暮らしの方の話し相手になるような支援ができればと考えます。
- 避難経路の機能チェック、不具合個所の改修（行政の取組み必要）
- 普段から非常時にはどう行動すればよいかシュミレーションしておく。
- 行政と一体になって住民のデータを整えたい。今後の地域活動、コミュニケーションづくりの強化。
- 地域の方（特に高齢者）の声かけ運動。集会所を拠点として気楽に集まれる場所づくり
- 「手助け感」のないおつきあい。きっかけ作りができればよいのですが。
- コロナ明けからサロンを再開したら喜んでもらった。男性の場が作りにくいので工夫したい。
- 広報。自治会、民児協、福祉委員との連携
- 見守り活動、いつもの行動でしっかりする。
- 声かけ、見守りをもっと進める。
- 特に高齢者（独居）に対する防災訓練が必要ではないか。常時見守りが大切かと思う。